

平成 28 年 1 月 7 日

横浜市立小学校長様
横浜市立小学校算数部主任様

横浜市小学校教育研究会長 石橋 孝重
横浜市小学校算数教育研究会長 清水 誓志人

「市算研ニュース」のお知らせ

新春の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。横浜市算数教育研究会の活動につきましては、日頃よりご理解、ご支援をいただき深く感謝しております。

さて、本研究会では、研究会の様子を「市算研ニュース」としてお伝えしております。貴校算数部の先生方を中心に、是非皆様にご覧いただけますようお願い申し上げます。

市算研の活動

○12月一斉授業研究会

4 方面で各 2 つずつの授業、8 会場で研究授業が行われました。総勢 600 名以上の方にご参会いただき、充実した研究会となりました。



＜参加人数＞	
羽沢小	88 名
六つ川台小	67 名
鶴ヶ峰小	118 名
西が岡小	77 名
浜小	70 名
芹が谷南小	62 名
山下みどり台小	59 名
鉄小	69 名



総勢 611 名!

○12月懇親会

授業研究会の後、横浜ホテルガーデンにて、12 月懇親会が行われました。授業者からのコメントや OB の先生方のお話もあり、にぎやかな会となりました。

12 月授業研究会各会場の様子

5 年「単位量あたりの大きさ」羽沢小学校 久保真梨子先生



＜授業のポイント＞

あえて条件のそろっていない日常場面を提示し、「お買い得なトマトはどれか」を考えていった。数学的に比較する際にはどんなプロセスが必要なのか。そろえて数値化するアイデアを引き出し、「単位量あたりの大きさ」を使う場面、使えない場面を考えることができた。

＜講師の指導＞小松先生（文科省学力調査官）、齊藤先生（羽沢小学校長）

日常と算数の往復を繰り返す授業展開がすばらしかった。これまでの授業観からすると、邪魔なもの、出てきてほしくないことがたくさん出てくる。また、答えが一つに決まるわけでもない。自分の考えた結論を、根拠をもって説明していくことが求められている。

2 年「かけ算（2）」六つ川台小学校 田中秋人先生



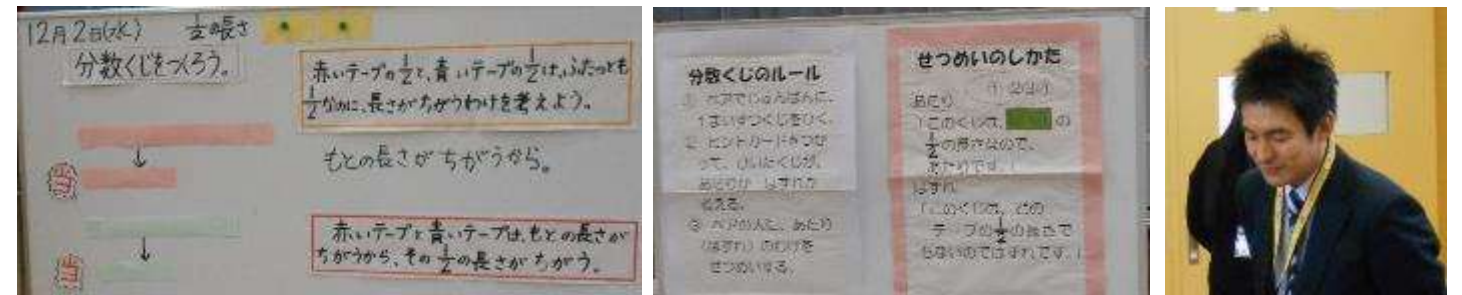
＜授業のポイント＞

そのままでは、かけ算を使って数を数えられない場面で、どのように見方を変えたり、工夫したりすればかけ算を使うことができるかに焦点を当てて児童は考えた。図と式を組み合わせながら、子ども自ら説明する姿が見られた。

＜講師の指導＞柳澤先生（六つ川台小学校長）原田先生（永田小学校長）

考えるだけでなく、本提案のように伝える活動を大切にしていきたい。図と式を結び付けようとすると、一つの式からいくつかの図が考えられるようになる。数をまとまりでとらえることで、能率的に解決できることを実感することが大切である。

2 年「分数」鶴ヶ峰小学校 源憲一先生



＜授業のポイント＞

分数くじを子どもたちが楽しむ中で、元の長さが違っても 1/2 でも長さが違うことを、ペアで説明しあうことができた。授業の初めに出てきた「元の長さが違っても 1/2 の長さも違う」ということを全員が確かめることができた。

＜講師の指導＞清水先生（鶴ヶ峰小学校長）菊地先生（今宿南小学校長）

2 年生の分割分数から、3 年生の量分数へとつながり部分について提案性の高い授業だった。1/4 もあたりにならないかと考えた児童もいた。学習したことを進んで使えるようにし、児童によっては自ら発展させていけるようにすることも大事である。

4年「広さを調べよう」西が岡小学校 福田正道先生



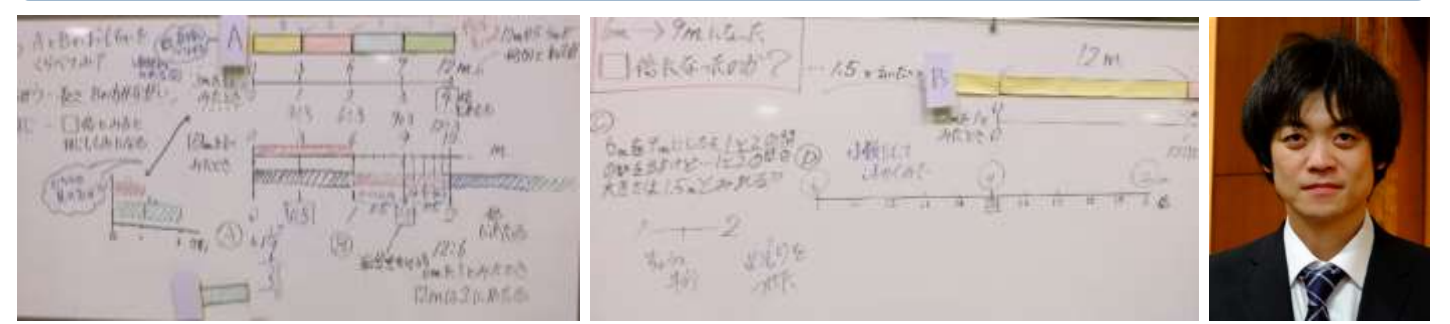
<授業のポイント>

広さという感覚を捉えやすくするために m^2 から導入し、実際に周囲が12mの4つの四角形の敷き詰めを行った。その中で単位正方形の有用さや比較するために数値化する必要性に子ども自らが気付くことができるようにした。

<講師の指導>伊藤先生(中和南小校長) 芝先生(東中田小校長)

m^2 から導入したことで、1 m^2 より小さな面積を求めるときに平方 cm の必要性が高まり提案性のある授業だった。敷き詰めを行うことで実感を伴う理解に繋がる。どの様に敷き詰めたか? 数えたか? を問い、乗法に繋げることが大切になる。

4年「小数のかけ算とわり算」鉄小学校 小畠政博先生



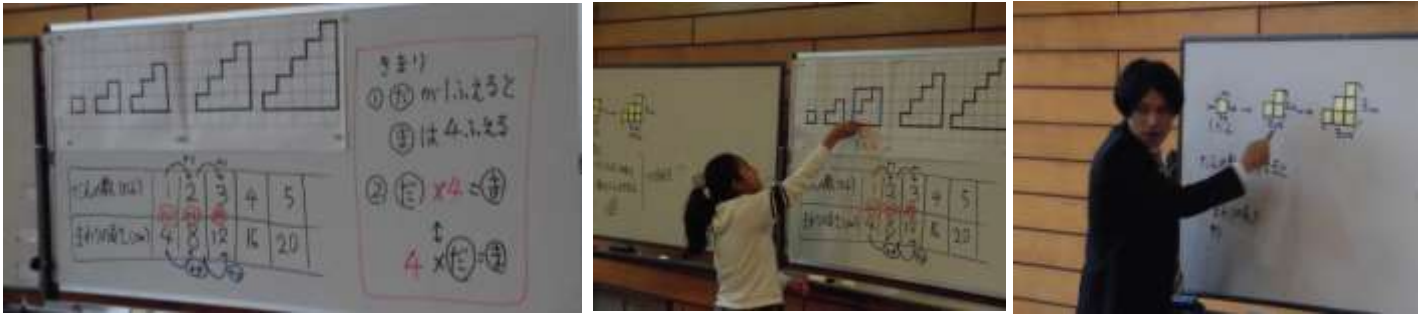
<授業のポイント>

倍概念を、工夫された教具を用いて理解させようとした実践であった。式とのつながりなど課題はあったが、多くの児童が図をもとに、ある大きさを1と見たときにもう一方の大きさが何にあたるかという見方を説明することができた。

<講師の指導>徳江先生(もえぎ野小校長) 田村先生(東市ヶ尾小校長)

教材を工夫することでテープ図から数直線にスムーズにつなげられることができていた。工夫された教材の良さが活かされていた。「ある数を1と見る」ということはできていたので、次は数直線と式をつなぐ必要がある。

4年「変わり方」浜小学校 梅本樹徳先生



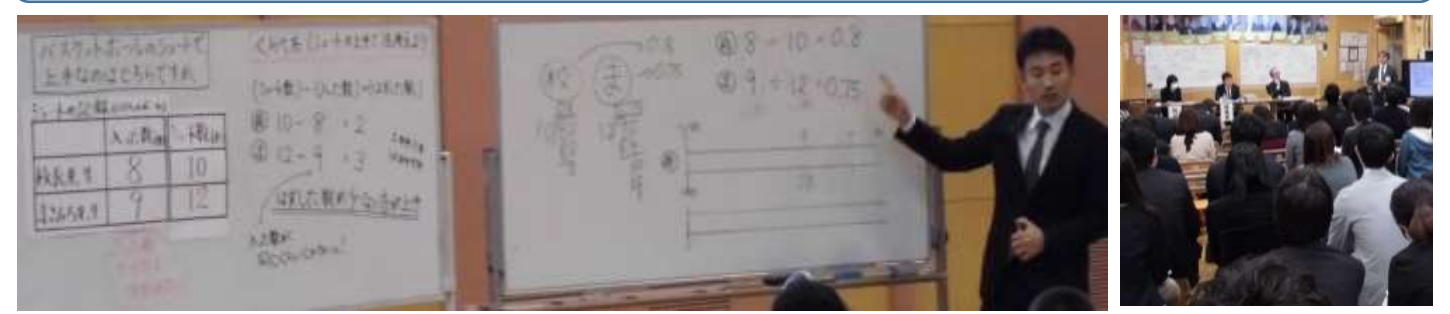
<授業のポイント>

伴って変わる2つの数量の間にきまりを見付け、その関係を式化し、その根拠を図と対応させて考えることができた。段の数が3段の場合について調べた段の数と周りの長さの関係を、段の数が増えた場合も成り立つか考えることができた。

<講師の指導>南部先生(浜小校長) 野村先生(朝比奈小校長)

子どもが図をじっくり観察し、「これでよいか」「本当?」と問い直す場面がたくさん見られた。式が出て終わりではなく、そこから図、表、式を常にセットで考えていくことが始まった。式を具体的に書き出して、 \bigcirc や Δ を用いて一般化していくことも大切である。

5年「百分率とグラフ」山下みどり台小学校 渡辺将道先生



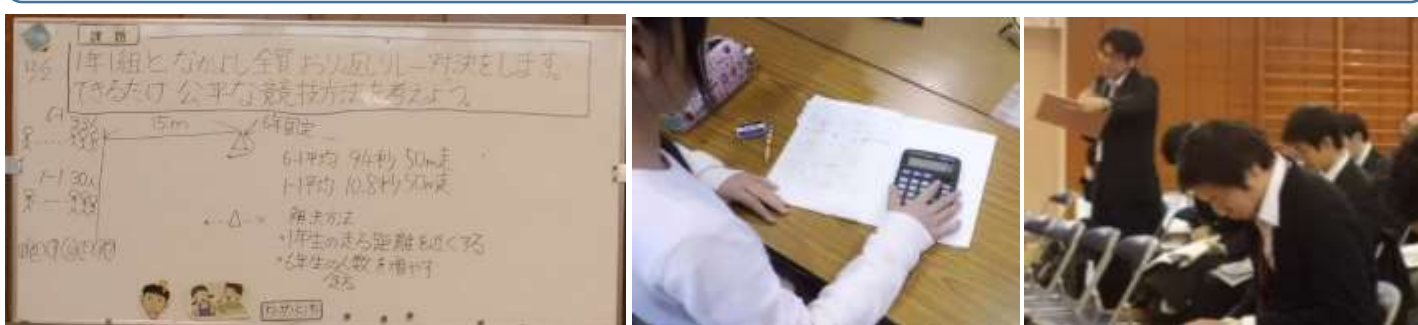
<授業のポイント>

割合の導入で「場面に応じて選択する力」を身に付けさせようとした。「日常事象の中から数量の関係を把握する」ために条件不足の場面を設定し、練り上げでは「差で比べるのか、割合で比べるのか」1つ1つ吟味していくようにしたりした。

<講師の指導>和泉先生(さつきヶ丘小校長) 小林先生(山下みどり台小校長)

差では比べられないときにどうするかと問いを絞り込むことができていた。反例をどうとらえるのかなど、練り上げでも、思考の対象を絞り込むことが大切である。思考の表れは多様であり、それに応じて授業中にデザインを変更していく必要がある。

6年「速さ」芹が谷南小学校 宮澤進一先生



<授業のポイント>

学習のまとめとして日常への活用場面を課題とすることで、意欲が向上するだけでなく知識の定着も図れると考えた。1年生との折り返しリレーで公平な競技方法を考えるという難しい課題だったが解決しようと熱心に取り組む様子が見られた。

<講師の指導>丸山先生(永谷小校長)

算数が実生活で生きていることを実感させる授業だった。教師が思いをもって提案することは大切である。取り組み方が分からない児童がいたことから解決するのに必要な力を明確に、児童の実態に合わせて教材研究をし、授業に臨むことが大事である。

宿泊研修会のお知らせ

すでにお知らせが各学校に届いています。申込みはFAXまたはメール便で。
(担当役員 高木広希 日枝小 TEL: 261-3764 FAX: 262-5086)

○日時 2月6日(土)14:30 受付開始 7日(日)朝食後(8:00頃)現地解散

○会場 マホロバマインズ三浦

○内容 15:00~ 幹事研修会 講演 清水誉志人先生 (鶴ヶ峯小校長・市算研会長)
久保田節子先生 (青木小校長・市会計監査)
18:00~ 懇親会 講話 齊藤一弥先生 (羽沢小校長・市算研副会長)

カラー版は市算数研究会ホームページをご覧ください。「横浜市算数小学校教育研究会」で検索、もしくはYYネットの「teachers' room」から。まだ、研究会へ登録されていない方も、市研の日に会員登録できます。役員等へお声かけ下さい。

問い合わせ先 会務庶務担当 諸角勇志 (川井小学校 953-0005)